

国語科学習指導案

日 時 平成24年10月4日
学 級 北上中学校 2年D組
場 所 北上中2年D組 教室
授業者 松戸紀代子 鈴木さき

1 単元名

漢字と仮名を調和させて書こう

2 単元について

2学年の書写では、「漢字と行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」「目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書くこと」を目標にしている。今年度は全体で20時間かけて指導していく予定である。

前の「行書を書いて確かめよう」の単元は、8時間かけて行った。生徒は、1年生の時にも行書を書いているが、行書の特徴の連続や点画の変化、丸み为中心だった。2学年ではさらに、点画の省略や筆順の変化という行書の特徴を強調してきた。

この単元「漢字と仮名を調和させて書こう」では、前の単元で学習した行書の特徴をいかした漢字と、それに調和した滑らかな仮名の筆使いを確かめていく。それから、文字の大きさや点画のつながりにも注目させて書かせていきたい。そして、今までの学習を応用することで、生活の中でも使ってみるきっかけとなり、繰り返すことで使い慣れ、読みやすく速く書けるようになっていくのではないかと考えている。また、古典の連綿の美しさを鑑賞することにより、行書の理解を深めるとともに、芸術科書道への興味にもつなげていきたい。

そのあとの単元「楷書か行書を選んで書こう」では、目的や必要に応じて、いろいろな筆記用具で大きさも自由に考え、楷書か行書を選んで書かせていく予定である。

そして「広げよう書写の輪」では、手書きのよさを実感させながら、気持ちをこめて、好きな言葉を書かせたい。

3 生徒について

今年度の2年生の国語には、1週間に1度のTTの授業がある。ABC組は鈴木が中心、DE組は松戸が中心で行ってきた。T2が手伝うというだけではなく、お互いに授業を見せ合い工夫しているという目的がある。生徒にとっては、机間巡視の際に質問しやすいようである。

筆ペンについては、授業の中で使うのは2回目である。墨つぎをせず、横を押して調節するのは使い慣れないと思うが、墨つぎをしないことで、漢字と仮名を調和させて行書で書くことに集中しやすくなるのではないかと思う。

D組の生徒は、授業中は素直に話を聞いて活動できる。集中して硬筆練習をすることもできる生徒である。しかし普段の文字は、四角っぽく書くくせ字だったり、とめ・はね・はらいがいいかげんだったり、正しく書こうという意識が薄い生徒も多い。いつも丁寧な文字を書く生徒もいるが、行書については、1年生の時に習っているものの、文化祭の時だけのものになってしまった。ところが、今年度行書の学習が始まってから、黒板にチョークで、連絡を行書で書いてみようとする生徒が出てきた。書写の学習に興味をもって、自主学習ノートに練習してくる生徒もいる。

本校では、年度初めに今年の1文字を筆で書いたり、立志式に向けて、好きな言葉を色紙に筆で書いたりすることがある。また、壁新聞の題字や、運動会のパネルに入れる文字に、行書を使ってみたいということもあるかもしれない。その時は、授業をいかして書けるようにさせたい。

4 単元の目標

行書に調和する仮名の筆使いを知り、漢字と仮名を調和させて行書で書く。

5 単元の指導計画と評価規準

* 書写は「伝統的な言語文化と国語のの特質に関する事項」に該当するが、以下の評価規準は、書写への「関心・意欲・態度」、書写の「知識・理解」、書写の「技能」である。

時間	学習活動	評価規準		
		関心・意欲・態度	知識・理解	技能
1	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの「城春にして草木深し」を比較し文字の大きさによる漢字と仮名の調和を確かめる。 ・行書に調和する仮名の筆使いの特徴を理解する。 ・点画のつながりについて確認する。 		漢字と仮名の大きさのつり合いや行書に調和する仮名の筆使いの特徴を理解している。	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・行書に調和する仮名の特徴を意識しながら筆使いを確かめ、筆ペンで「いろは歌」を書く。 ・行書に調和する仮名は、楷書に調和する仮名よりも筆脈がよりはっきり表れることを理解する。 	始筆や終筆の筆圧に気をつけて一文字の中に筆脈が表れるように書こうとしている。		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・行書に調和する仮名に見られる特徴的な線を毛筆で書いて、筆使いを確かめる。 ・漢字と仮名の調和を図りながら毛筆で「初秋の便り」を書く。 ・毛筆での学習を生かし、「初秋の便り」、などを硬筆で書く。 			行書に調和する仮名の特徴を意識して行書との調和を図りながら「初秋の便り」と書いている
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさと筆脈を意識しながら、筆ペンで、俳句を短冊に漢字と仮名を調和させて行書で書く。 			文字の大きさと筆脈を意識しながら、漢字と仮名を調和させて行書で俳句を書いている。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊勢物語図色紙」「高野切第三種」を見て、連綿による文字の美しさや配列の工夫や墨量に注目しながら、昔の人が書いた文字を味わう。 	「伊勢物語図色紙」などを見て、連綿や配列や墨量に興味・関心をもつ		

6 本時の指導

(1) 本時の目標

文字の大きさと筆脈を意識しながら、漢字と仮名を調和させて行書で俳句を書く。

(2) 本時の授業構想

〈教師の説明〉では、短冊に筆ペンで、漢字と仮名を行書で書くにあたって、行書の特徴を確かめるとともに、ポイントである文字の大きさや、筆脈について説明する。

〈理解確認〉では、文字の大きさを、はこを印刷した練習用紙で意識させる。教科書の見直しやグループでの交流により、行書の特徴の確認をし、硬筆で下書きをさせる。筆脈については、一文字の中の点画のつながりと、文字からと文字へのつながりがあることを確認し、下書きの手直しをしてから、その上に筆ペンで書かせる。筆ペンで書き終わったら、グループでお互いに見せ合い、間違いはないか、うまくできたところはどこかを確かめる。

〈理解深化〉では、清書をさせる。はこを印刷した用紙ではなく、折り目もない紙を使うことで、自ら大きさを意識して書くことが要求される。短冊用紙を使うことで、ある程度の緊張感を持たせ、丁寧に書こうとすることを期待している。練習用紙を横に置いて書かせる。

〈自己評価〉では、二枚書いた清書を見比べてポイントにしたがって自己評価をさせ、よい方を提出させる。

(3) 評価の観点と評価

観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
文字の大きさと筆脈を意識しながら、漢字と仮名を調和させて行書で俳句を書いている。	大きな文字と小さな文字を書き分け、一文字の中の筆脈と文字から文字への筆脈が表れるように漢字と仮名を調和させて行書で俳句を書いている。	漢字を大きく、仮名を小さく書き、筆脈を意識しながら、行書で俳句を書いている。	漢字と仮名の文字の大きさを意識させ、行書の特徴を取り入れながら書かせる。

(4) 本時の展開

		学習活動と留意点	評価
教 え る	教 師 の 説 明 10 分	1 本時の学習課題を確認する。 文字の大きさと筆脈を意識しながら、漢字と仮名を調和させて、「古池や蛙とびこむ水の音」と筆ペンを使って行書で短冊に書こう。 2 1時間の授業の流れを確認する。 ・ 練習用紙にシャープペンシルで計画を立てる。 ・ その上に筆ペンで練習する。 ・ 練習用紙を見ながら、短冊用紙に筆ペンで二枚書く。 ・ 自己評価をして一枚提出する。 3 気をつける点を確認する。 ・ 漢字は仮名より大きく書く。ただし文字によって大きさが違う。 ・ 筆脈が表れるように書く。一文字の中の筆脈と文字から文字への筆脈を意識する。 ・ 連続や点画の方向や形の変化や丸みや省略や筆順の変化という行書の特徴をいかして書く。	
		4 はこを印刷した練習用紙に行書の特徴をいかして下書きをする。 ・ おおまかな大きさをつかむ。 ・ ゴシック体の文字を行書に直す。 T 2 机間巡視 ・ 文字から文字への筆脈も考えて手直しをする。 5 グループで見せ合い、下書きの見直しをする。 ・ 間違いはないか。 6 筆ペンで下書きの上から書く。 7 グループで見せ合い、下書きの見直しをする。 ・ いいところはどこか。	【技能】 A 大きな文字と小さな文字を書き分け一文字の中の筆脈と文字から文字への筆脈が表れるように漢字と仮名を調和させて行書で俳句を書いている。 B 漢字を大きく、仮名を小さく書き、筆脈を意識しながら行書で俳句を書いている。
理 解 確 認 15 分	8 短冊用紙に清書を書く。(2枚) ・ 練習用紙を横に置いて書く。 T 2 机間巡視 ・ 折ったり、線を引いたりしないで書く。 ・ 用紙には上下があるので注意させる。		
理 解 深 化 15 分	9 自己評価用紙を書きながら、提出用の清書を選ぶ。 ・ 漢字は大きく、仮名は小さく書けたか。 ・ 大きな文字と小さな文字を意識して書けたか。 ・ 行書の特徴の丸みをいかして書けたか。 ・ 行書の特徴の点画の変化をいかして書けたか。 ・ 行書の特徴の連続をいかして書けたか。 ・ すべての文字を、筆脈を意識して書けたか。 ・ 文字から文字への筆脈がわかるように書けたか。		
考 え さ せ る	10 分	10 次回の予告をする。	